

《詩歌》 蝶景異情

クロイドン 小六

蝶々よ 旅立て
 蝶々よ 旅立て
 せまき さなぎより はばたけ
 蝶々よ 飛べよ



【評】学習した「小景異情」のスタイルを踏襲しつつ、言葉遊びのユーモアも秀でている作品だと思いました。

《生活文》 新六年生になつて思つたこと

アクトン 小六

僕が六年生で頑張りたいことは三つあります。それは、日本語の作文を自由自在に書けるようになることと、フエンシングがもっと上手になることと、そして、中学校で友達をたくさん作ることに三つです。これからそれぞれについて説明します。

一つ目は、日本語で作文を上手に書けるようになるからです。英語で文章を書くことは好きですが、日本語だとうまく言葉が出なかつたり、何となく書きかわからなくて調べたり聞いたりするのに時間がかかることがあります。自分の言いたいことを、伝わる言葉や表現で、鳥が自由に空を飛び回るように書けるようになります。

二つ目は、フエンシングを上達させることです。学校と地域のクラブに続いて、先月から個人レッスンも始めました。相手の心の動きを読んで、すきを

見て相手のどう体か背中にもうまくヒットするとうれいす。チャンピオン達の試合を見て、とんだり剣をよけるために体を大きくひねつたり、アクロバットのよな予想外の大きな動きをしていて驚きました。僕ももっと腕を磨いてクラブの有力選手になりたいです。

最後は、九月から中学校が始まるので、友達をたくさん作つて勉強もスポーツもがんばりたいからです。今週制服や学校生活についての手紙や情報が届いて、家族でワクワクしながら読みました。でも新しい環境で、新しい生活が始まると思うと、同時にすごくドキドキしてきました。ちゃんと準備もして、いろいろなことにはチャレンジする五年間にしたいです。

【評】「鳥が自由に空を飛び回るように」作文が書けるようになりますよ、きつと。六年生ではきつりと具体的な目標をもつてがんばることの素晴らしさが伝わってきます。



《生活文》 ひなんくんれん

フレント 小三

とつぜん大きなサイレンの音がなりました。その時はぼくは口をおさえました。それは口からけむりがちよくせつ入らないようにするためです。ぼくは(おかしも)を思い出しました。(おかしも)とは、おさない、かけない、しゃべらない、もどらないです。そして先生のしじにしがつて校庭に行きました。

校しゃ長先生は、三分と四分の生ぞんりつのがいについて教えてくださいました。

「今日のひなんくんれんにかかつた時間だと、亡くなつてしまふ人がいるかもしれません。」とおっしゃっていました。ぼくは日本にすんでいたとき父に、はんしんあわじ大しんさいのえいぞうを見せてもらつていたので、少し知つていました。家に帰つてから、家族みんなて天災について話し

合いました。東日本大しん災の画ぞうを見せてもらいました。波が高くなり船がはしにげきとつして大へんだと思ひました。ぼくははいぼうをこえることはないと思ひ、船の心配ばかりしてました。ところが、まっ黒な波ははいぼうをかんとんにこえて自動車や家があつという間にのみこんでいききました。

いつ何がおこるかにはだれにも分かりません。だから、くんれんや災がいにいつて知り、考えることが大切だと思ひました。ひなんくんれんは、自分や友だちの命を守るためにしつかりやらないといけなことが分かりました。

【評】三分と四分の生存率の違いについてや、日本の過去の災害についてご家族で話し合つたことについて等、よく書けています。



《日記》 国王のたいかんしきの日

フレント 小三

国王のたいかんしきの日に、たいかんしきをテレビで見ました。王かんはどてもとでもきれいでした。人がいっばいいました。へいたいが馬ののつていて、その馬のうしろには馬車がありました。その馬車にのつていた人は王さままでした。たいかんしきのまえには王さまは王かんをかぶつてなかつたけど、帰りは王かんをかぶつていました。一番おもしろかつたところは王さまが王かんをかぶつた時、王かんがちよつときつそうだつたことです。たいかんしきは長かつたです。でも、わたしのほしゅう校の入学しきの方がもつと大へんだったと思ひました。どうしてかという、何回も立つたりすわつたりしたからです。



【評】戴冠式の様子をテレビで見、さんがどんなことに気づき、どんなことを思つたかがよく分かる日記です。